ばぶよちぴょん！
～子育て支援のページ～
Vol.12

子育て中のパパ・ママに聞いた『子育てアンケート』結果５

# 幸せだなぁと感じるとき

（※一部回答・意見を抜粋）

兄弟仲良く遊んでいるとき
４位

子どもが寝ているとき、寝顔
２位

子どもの笑顔
１位

家族で過ごす時間
３位

家族で笑っているとき、子どもの成長が見られたとき
５位タイ

その他「子どもと寝るとき、昼寝」、「子どもと手をつなぐ」、「子どもが抱きついてくる、甘えてくる」、「子どもとお出かけ」、「子どもがご飯をもりもり食べてくれるとき」など

「子育てアンケート」は 平成27年4～5月に、町内の子育て施設で実施しました。なお、アンケート全体の回答は、町ホームページで公開しています。
【アンケート実施施設】子育て支援センター☎(294)4820、毛呂山みどり保育園子育て支援センター☎(294) 1115、東公民館子育て支援室☎(294)1800、児童館☎(295)4111　ご協力ありがとうございました。

ばぶよちぴょんのコーナーは、今回が最終回です。子育て支援センター、子育て支援室、児童館の紹介や子育て中のパパママの声をお伝えしましたが、いかがでしたか。子育ては１人ではできません。利用しやすい施設に出かけ、スタッフや他のママとお話しすることで、不安や悩みは半分に、喜びは２倍にしていきましょう。子育て支援施設は、たくさんのママのご利用を心からお待ちしています。

## 毛呂山歴史散歩
### 第２６２回
## 武家から庶民へ
### ～雛祭りと享保雛～

3月3日は、雛人形を飾り、菱餅や白酒を供えて、女の子の健やかな成長を願う「雛祭り」が行われます。「上巳の節供」とも呼ばれ、季節の節目の行事として行われていました。

上巳の節供は、中国から日本に伝わったもので、3月の最初の巳の日に禊を行い、穢れを祓う行事です。元々は肌身にヒトガタ（紙人形）をすりつけて罪を移し、水辺に流す風習でした。次第にヒトガタが立派なものになり、水に流さず保存する例も表れ、やがて雛人形が誕生します。

庶民に雛飾りが広まったのは、江戸時代の文化・文政年間（１８０４～６４年）。この頃から平安時代の宮中の階層を模した雛段に雛人形を飾るようになり、今日に至っています。

また、享保年間（１７１６～３７年）頃から「享保雛」と呼ばれる種類の雛人形が流行しました。豪奢な衣装を着せた大型の人形で、当時、都市部の富裕層が多く所有していました。

毛呂山町にも町指定文化財となって残されている、江戸時代後期の享保雛があります。川越藩に仕えた女性が藩から下賜されたものといわれ、大きさは男雛が45・7cm、女雛が42・9cmもあります。男雛は束帯、女雛は十二単姿で、どちらも能面のような古風で面長な表情が特徴です。

毛呂山町に残るこの享保雛は一般的なものとは異なり、通常藁で作られる胴体部分は木製で、この胴体に合わせて頭部が作られていることから、特注品であると考えられています。

雛祭りは「桃の節供」とも呼ばれ、雛人形の華やかな装いや雛飾りと供に、春の足音が近づいてくるようです。

毛呂山町の「享保雛」